

2024 年 2 月 27 日

2023 年度聖路加国際大学大学院  
看護学研究科修士論文

題目

NICU・GCU 看護職による搾乳継続支援と関連要因の探索  
— 早産児の母親の視点から

Mothers' Perspectives' of Continued Milk Expression Support from Neonatal Intensive  
Care and Growing Care Unit Nurses and Midwives and Related Factors:  
A Quantitative Study

学生番号 : 22MW012

氏名 : 中屋幸子

## 要旨

【目的】早産児の母親が NICU 看護職から提供される搾乳継続支援を測定する尺度を開発し、支援に関わる要因、支援と搾乳の状況との関連、母親の満足度に関連する要因について探索する。

【方法】研究デザインは、無記名自記式質問紙による量的記述的研究である。研究対象は、総合あるいは地域周産期母子医療センターの NICU・GCU に入院中の早産児の母親と、そこに勤務する看護職とした。質問紙の項目は、母親に対しては NICU 看護職の搾乳継続支援尺度、母親・子どもに関する特性、搾乳継続支援に対する母親の満足度、母親の搾乳の状況、搾乳継続過程での困難・搾乳継続支援に対する要望であり、看護職に対しては施設に関する特性とした。Web を用いた質問紙調査を行った。分析には統計ソフト IBM SPSS Statistics 29、パス図作成には IBM SPSS AMOS 29 を使用し、有意水準は両側 5% で検定した。本研究は聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認（承認番号：23-A010）を受けて実施した。

【結果】19 施設と施設の早産児の母親 98 名から回答を得た。NICU の搾乳継続支援尺度については探索的因子分析（主因子法・プロマックス回転）を行い、18 項目 4 因子を抽出し

【目で見ても手で触れて乳房に働きかける支援】【搾乳継続する母親の気持ちを支える支援】

【生活の中に搾乳を根付かせる支援】【母乳分泌を促進・維持する支援】と命名した。確認的因子分析を行い、最終的なモデル適合度は  $\chi^2=233.800$ 、 $df=129$ 、 $GFI=0.806$ 、 $CFI=0.903$ 、 $RMSEA=0.092$  であり、尺度全体の Cronbach  $\alpha$  係数は、 $\alpha=0.93$  であった。尺度の平均得点は 68.5 点（ $SD=15.51$ ）であり、HDP 合併、出生週数 32 週未満、カンガルーケア実施群で得点が有意に高かった。また、母親の搾乳の状況のうち、1 日搾乳量 500ml 以上である母親は NICU 看護職の搾乳継続支援尺度得点が高かった。搾乳継続支援に対する母親の満足度の平均点数は 80.42 点（ $SD=19.16$ ）であり、満足度に関連する要因は、【搾乳継続する母親の気持ちを支える支援】（ $\beta=0.36$ 、 $P<.001$ ）【生活の中に搾乳を根付かせる支援】（ $\beta=0.31$ 、 $P<.001$ ）であった。

【結論】NICU 看護職の搾乳継続支援尺度は 18 項目 4 因子で構成された。搾乳継続支援の提供は、母親と子どもに関する特性に関連していた。また、支援を受けることで十分な搾乳量に繋がり、母親の満足度は【搾乳継続する母親の気持ちを支える支援】と【生活の中に搾乳を根付かせる支援】に関連していた。